

ふり返りと傾聴 ～個人も集団（チーム）も成長している～

校長 小林 正樹



木の枝に寒風を感じる季節となりました。一年の最後の月である師走は、年が変わる大きな節目であり、この一年をふり返り、新たな年を迎える準備をする時期となりました。

埼玉県駅伝大会女子の部では参加校70校のうち大谷口中学校は18位と健闘し、応援する姿や応援にこたえる選手の姿から感動をもらいました。さらに吹奏楽部のアンサンブルコンテスト、中学校特別支援学級合同スポーツ大会、他にも各部の県大会や理科教育研究発表会、標語コンクールでの入賞等、生徒の活躍が続いています。とても誇りに思います。

さて、学期末に必ず行う「ふり返り」について考えていきたいと思います。そもそも「反省」と「ふり返り」、何が違うのでしょうか。「反省」はすでに起きてしまったことに対し、その「原因」や「責任」に注目しています。「ふり返り」ももちろん同じことを扱うのですが、焦点は「原因」や「責任」でなく、それをふまえて次のステップを決め、実践していくことが目的になります。良く行われる「ふり返りの方法」にKPTがあります。K-keep（良い結果が出ていて、今後も続けるべきこと）P-problem（今抱えている問題）T-try（次に挑戦すること）を意味しています。毎日続けることで、効率よく効果を発揮し一段と成長することができます。個人で行うことも可能ですし、他の人と集団（チーム）で「ふり返り」を行うことで、自己理解、他者理解も深まり、個人も集団（チーム）も成長できます。何かうまくいっていないときに立ち止まって、ふり返りを行う習慣をつけることで、確かな学力の定着や自分の成長につながっていくと考えます。生徒の皆さん、実践してみてください。3年生はいよいよ受験が迫ってきました。これから受験までの期間は、焦らず、人と比べず、自分のペースで、自分に甘えない努力と「ふり返り」を続けることが大切です。そして、もう一つ大切なのは、仲間の応援です。つらいこともみんなの支えや声掛けがあれば乗り越えられると体育祭など様々な場面を通して体得したことでしょう。一人ひとりがクラスの皆を応援し、全員が希望を叶えてくれることを願っています。

保護者の皆様、12月23日からは冬休みに入ります。短い期間ではありますが、家族で過ごす時間が増え、お子さんともゆっくり時間が取れる絶好の機会でもあります。一緒に大掃除、買い物や正月準備をしながら、同じ時間と場所を共有する中で、普段はできない会話をさせていただきたいと思います。大切なことは傾聴です。ぜひとも聞き上手になってください。「なるほど、そうなんだね」「そんなふうに考えていたんだね」「もっと話を聞きたいな」という言葉を返すことで子どもたちは安心し、様々な思いを語るようになります。次のような言動は控えてください。子どもは話す気を失ってしまいます。

○スマートフォン等を見ながら話を聞く→顔（目）を見てください。

○話の途中で意見する→最後まで根気強く聞いてください。

○話の先読みをする→「あなたが言いたいのは〇〇でしょう」はNGです。

○分かったふりをする→話の意味が分からなかったら聞くことも大切です。

お子さんからいきなり話しかけられて、すぐには対応できないときもあります。その時は、つい「後でね」と言ってしまうがちですが、聞く姿勢を示すことで、子どもたちは「聞いてもらえる」と思ってホッとします。ただでさえあわただしい年末年始、そんな余裕はないと思われる方もいらっしゃると思いますが、話を聞く時間を大切にしてください。

結びに、保護者・地域の皆様におかれましては、今年も本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございました。併せて、PTAの皆様による正門の植栽活動によって、花々で華やかになり素敵な環境を整えていただきありがとうございます。

新しい年、令和6年は、全ての生徒が自信をもって大きく成長できる年になりますよう心から願っております。年末年始を控え、感染症防止について、ご家庭でも引き続きよろしく願いいたします。